歯学図書館連絡協議会

Dental Library Association

大久保 泰 雄*

日本大学歯学部図書館

I. 発足の経緯

日本医学図書館協会内における歯学図書館の加盟が、年次を追って増えてきたので、日本医学図書館協会総会(以下総会という)時に、歯学図書館の主任司書同士が顔を会わせるうちに、誰からともなく同館種同士が横のつながりを深めるという意味で、総会時に合わせて軽い話し合いの場を設けてはどうかという声が出てきた。そこで昭和50年10月、鳥取において開催された第46回総会時に、「歯学図書館連絡会」の名称で第1回目の主任司書による会合を持った。

その後2年間は同じような形で行われてきたが、昭和53年、花巻で開催された第49回総会時には、初めて館長出席のもとに懇談会が開かれ、参加館の親密の度を深めた。

こうした経過を踏まえて、昭和54年5月、総会時とは別に東京において第1回主任司書会議が開催され、今後の会のあり方について協議が行われた。そして、そこで協議され、合意された事項は

1. 歯学図書館の横の連絡を密にするという意味の、これまでのような会合をもう少し続けた方がよい。
2. 相互利用などに関しても、他の医学図書館になるべく負担をかけないように、歯学図書館同士で活発に活動していくようにする。
3. 歯学図書館の集まりとして、日本医学図書館協会未加盟館の歯科大学にも参加を呼びかけ、この連絡会を定期的に開催して、歯学図書館の特性を打ち出しながら徐々に形を整えていく。

4. 現状では会則等のない任意の団体として、会合としては研修の意味を含めた連絡会と、総会時における館長出席のもとに懇談会という年2回の連絡協議会という方向で進む。

5. 会合の世話館は1年交替とする。

6. 会の名称は、この会自体がいまだにはっきりした形ではないので、今のところ仮称として「歯学図書館連絡協議会」を用い、正式名称は今後の課題とする。

7. 事務連絡費等の会費は設けず、その都度会議費の中に含める。

等で、それ以後は任意の団体としてこれらの取り決めに基づいて本会の活動は継続されてきているが、未だ会則は定められていない。

II. 目的と事業について

本会の目的はあくまでも歯学図書館の横の連絡を密にして、相互協力の円滑化を図るとともに、同じ特性を生かした研鑽を積むことによって、館員の資質の向上に役立てようとするところにある。

こうした観点から事業として、1. 歯学図書館連絡協議会懇談会、2. 歯科大学図書館員研修会、の名称のもとに年2回の定例会合を開催している。

歯学図書館連絡協議会懇談会は、本会発足の基になっている歯学図書館同士の横のつながりを密にするということにもつばらの焦点を定め、館長と司書が一体となって、くつろいだ雰囲気の中で相互の情報交換を行ない人的なつながりを深めるのに役立っている。

歯科大学図書館員研修会は、司書を対象とした研鑽の場を設けるということにその目的があり、昭和54

* Yasuo OKUBO: Dental Library, Nihon University, 8-13 Kanda-Surugadai 1, Chiyodaku, Tokyo 101, Japan.
(昭和59年5月24日 受理)

年5月に開催された主任司書会議の席上で、第1回目は昭和55年度、大阪歯科大学が当番館となって開催されることが決定され、以後毎年開催されている。

以下開催回次、年月日、当番館、内容等を紹介すると次の通りである。

第1回（昭和55年7月3日～4日 大阪歯科大学図書館）
〔内 容〕

1. JOISの利用について—メドラーズを中心として—
（大阪歯科大学図書館）
2. JOIS による検索実習
3. 加盟館統計に現われた歯科大学図書館の現状について（城西歯科大学図書館 木村 周平）

第2回（昭和56年7月3日～4日 日本大学歯学部図書館）
〔内 容〕

1. 日本大学歯学部図書館における歯科学図書分類上の問題点（日本大学歯学部図書館 中野 晴子）
2. 歯科用語の解説—歯科保存学を中心—to
（日本大学歯学部教授 斉藤 毅）
3. 歯科用語の解説—歯科補綴学を中心—to
（日本大学歯学部助教授 小山 正宏）
4. 歯科学文献集—分類および索引語付との問題点—
（日本歯科大学図書館 小林 レチ子）
5. 東京歯科大学図書館見学

第3回（昭和57年7月16日～17日 愛知学院大学図書館歯学部分館）

〔内 容〕

1. 講義1：歯科医学教育と図書館活動
（愛知学院大学歯学部教授 榊原 悠紀田郎）
2. 報告：米国の大学図書館を見学して
（鶴見大学歯学部図書館 海野 雅央）
3. 研究発表1：歯科領域における会議資料の収集について（洋）（日本大学歯学部図書館 森 春昭）
4. 研究発表2：歯科領域における会議資料の収集について（和）（城西歯科大学図書館 高野 恭一）
5. 講義2：歯科矯正学および矯正臨床の総覧
（愛知学院大学歯学部教授 飯塚 哲夫）
6. 岐阜歯科大学図書館見学

第4回（昭和58年7月1日～2日 日本歯科大学図書館）
〔内 容〕

1. 講義1：口腔外科学を垣間みて
（日本歯科大学教授 園山 昇）
2. 研究発表1：目録の機械化についての考察
（日本大学歯学部図書館 溝上 眞弓）
3. 研究発表2：資料受け入れの機械化試案
（岐阜歯科大学図書館 熊谷 健治）
4. 事例発表：視聴覚資料—当館のAVR利用状況について—（松本歯科大学図書館 鈴木 孝昌）
5. デモンストレーション：DIALOGによるLC MARCの利用とその応用
6. 講義2：歯の本質を考える
（日本歯科大学教授 須賀 昭一）
7. 慶応義塾大学三田情報センター見学

III. 組織・運営について

本会の組織されている図書館は、昭和59年4月1日現在、日本医学図書館協会に加盟している公立歯科大学図書館1、私立歯科大学・歯学部図書館14、および未加盟館1に参加を呼びかけ計16館で構成されている。

本会への加盟の資格基準などは設けていないが、歯学専門図書館としての機能を備えていることを一応の建前としている。

運営については毎年当番館を決めて、当番館がその年度に行われる事業運営の主体となるが、これと事務局および近隣大学の主任司書が協力して企画等が進められる。

経費は現在のところ徴集せず会合を開催する都度、参加費の形で徴集し、不足分は当番館が負担している。

役員については会長等は定めず、事務局が中心となって事務連絡を行っている。

IV. 今後の課題について

これまで述べてきたように、本会が一応の形を整えて年2回の事業を行うようになってやっと4年を経過

したところであるが、毎年当番館を決めて運営していく中で、そろそろ形式的にも会則等を定めて、裏付のある組織体として活動していく時期に入ったのではないか、との声が出はじめていますので、メンバーの中から会則草案検討委員を選出し、会則作成の準備を始めている。

そこで、この会則の草案を検討していく中で出てきた問題点は、組織に関しては、1. 現在歯科大学図書館および大学歯学部図書館をもってメンバーが構成されているが、今後、国立大学および私立大学における医学部・歯学部が一体となって運営されている図書館の参加をどのようにしていったらよいか、2. 日本医学図書館協会との関係はどのようにしていったらよいか、また協会の総会にはかり協会傘下の分科会として活動するのがよいのかの2点が出てきた。

運営に関しては、原則的にこれまでの方法(当番館が事業運営の主体となる)を踏襲するものとして、形として運営委員会制度を設け、当年度、前年度、次年度当

番館主任司書および事務局の主任司書が運営委員として、会の運営に当たるとい形にしてはどうかとの案も出されている。

しかし、これらの問題について現段階では、一部の草案検討委員によって検討された内容の一部に過ぎず、今後メンバー各館に図って決められていくものであるが、一応本会にとっての今後の課題になるものと思われる。

いずれにしても本会は、歯科学という一専門分野を共通とする図書館の集まりとして、相互の協力と緊密な連絡を保ちながら、歯科学の研究と教育とに貢献するために今後も展開されていくことには変りない。

〈歯学図書館連絡協議会〉

〒101 東京都千代田区神田駿河台1-8-13

日本大学歯学部図書館内

TEL. 03-293-5711 内線 219, 212

*

*

*